

久保忠一後援会ニュース

活動報告春号 2012年3月24日発行

発行者 鴨川市議会議員

久保忠一 (くぼただかず)

住所 東条地区広場1709番地 1960年3月9日 生所属団体・役職
エビハラ病院(薬剤師・ケアマネ)、NPO法人床ずれ研究会(代表)、日本褥瘡
学会(千葉県支部実行委員)、認定NPO法人生活情報推進ネットワーク(副
代表)など

連絡先

090-7402-3941

FAX: 04-7093-6030

E-mail: qqbm5s5w9

@able.ocn.ne.jp

携帯メール

toppie.nozomi@docomo.ne.jp

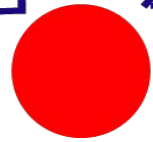
住所: 東条地区

広場1709番地



がんばろう

日本



ごあいさつ

輝かしい季節を迎え、益々ご健勝のこととお慶び申し上げます。

地方議員の使命とは、貴重なお金が最も適材適所に分配されるような制度を作ること、民間の活力を引き出すお手伝いをするのではないのでしょうか。

高度成長の時代は民間の力が国民の経済力を引っ張ってききましたが、今は政治の力量が真剣に問われています。

日本政府はこれまで経済活動を阻害してきましたが、全ての国家の活動は民間の企業活動により作られていることに気付いておらず、利権政治により破綻の道を進みつつあるのです。

この点、今の大阪維新の会の躍進は、政治の分限をわきまえた中で、政治制度の変革を目指しているところに人々の共感を得ていると感じられます。

地方は、自分たちで財源確保のリスクを取らず、国からもらう補助金や交付税に頼るこのよくな仕組みを変え、国県市にまたがる事業では身近な市や地域の裁量を反映させることにより、真の地方分権を目指す姿勢に人々は共鳴していると思います。その流れはやがて全国に広がるでしょう。

ただ、大都市大阪という特殊な事情と鴨川では安易な比較はできません。産業の無い小都市

は中央からの交付税がなければ生きて行けないのが現実です。

しかし、それに決して甘んじることなく将来の産業振興を主体的に行うことが、最重要課題と考えます。

鴨川市、市民の立場に立って、何が最良の決断なのかを真剣に考え、国と地方が合理的で画期的な予算の配分、雇用の確保が図られることを政治命題とし、一方で専門性も生かしつつ今後も臨んで参ります。

末筆ながら、皆様方のご健康とご発展を心よりお祈り申し上げます。

